

拠点像1 アジアとの大交流拠点

概要

ダイナミックな大交流

アジアとの良好なアクセス、文化施設、ショッピング、おいしさ、自然などがコンパクトに揃い、郊外や九州各地の観光地へ日帰りでアクセスしやすい交通インフラなどの都市圏の良さを活かす。

また、九州北部地域は、国際コンベンション開催回数が多く、ショッピングのしやすさを中心に観光客が国内・海外を問わず訪れるなど、外部からの訪問を誘引する要素が都市圏内外に多数存在する。

そのため、観光、コンベンション、国際学術交流などの一層の興隆により、アジアをはじめとする世界の一大交流拠点となる都市圏像を描く。

ゆとりある都市生活のフロンティア

都市と農山村が身近に接し、それぞれの住民が都市機能と豊かな自然の両方を享受できるといふ、九州の他県の人々から評価が高い「居住環境」の良さと「住みやすさと親しみやすさ」を今後さらに充実させ、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を重視した生活を先駆的に提案できる、今後のアジアの諸都市のあり方のモデルとなるような拠点を作る。

また、少子高齢化社会、低炭素社会、多文化共生社会に対応し、高齢者、外国人など誰もが安心して暮らせ社会参画ができるような、日本を含むアジア諸国から見て、魅力あるライフスタイルを先進的に実現し続ける「住みたくなる」都市圏像を描く。

（拠点像を支える要素）

空路・航路などのアクセスの良さ、町並み・景観、食材の豊富さ、料理の多様さ・おいしさ、温泉・マッサージ等ヒーリング・スポットの豊富さ、コンベンションの多さ、ショッピングのしやすさ、医療・介護施設の整備

施策の方向

○観光・コンベンション・国際学術交流の推進

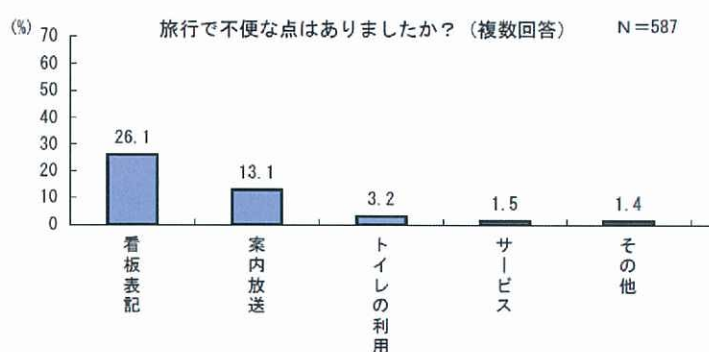
これまでアジアの国々と経済、文化、青少年など様々な分野において、経済交流、住民による草の根交流、大学、行政による交流など、多様で重層的な関係を築いてきた歴史を

基礎に、7つの拠点像の実現に向けた各取組を遂行することにより、観光、コンベンション、国際学术交流のより一層の興隆を図る。

○外国人が訪れたいくなる受け入れ態勢の整備

当地域を訪れる外国人の8割以上は中国人・韓国人であるにもかかわらず、中国語・韓国語による観光案内は十分とは言えない。来訪した韓国人からの聞き取り調査によると、観光地や公共交通機関における不満足度で最も多いのが、外国語表記の不足である。

図 1 韓国人が答えた九州での旅行で不便な点 (平成 20 年 9 月)



このため、各種公共交通機関や主要なランドマークにおける中国語・韓国語による案内標識や、観光マップの整備、スポット的な観光案内所の増設などを行い、来訪者がストレスなく町を散策できるようにする。

また、当地域を訪れた人が半日、1日といった短時間でも楽しむことのできるツアーや観光ルートを提供する。

○アジアのモデルとなる「ゆとりある都市生活」の情報発信

医療・介護、公共交通インフラ、教育、ボランティア活動など、誰もが生き生きと生活できる生活環境の整備を着実に推進する。

また、世界的に見て終の棲家として住みやすい地区であることをデータとイメージで国内外にアピールすることが重要である。

そのため、東アジアに対する地の利を活かし中国や韓国の外国人や、外国人高齢者にとって住みやすい環境の情報をアジアに向けて発信する。

○高齢者の能力活用の推進

アジアの中で、魅力的な都市圏であることの象徴的なライフスタイルとして、「セカンドライフはこの地域で」をキャッチフレーズとできるようにする。

そのため、高齢者が今までの人生で培ってきた様々な人生経験や技術、ノウハウを伝承

するなど、高齢者がその能力を発揮し、生きがいを持って社会参加ができる仕組みづくりを推進する。

○ユニバーサルデザインの推進

当地域を訪れる外国人に評価の高い町並み、施設デザインは、ゆとりある都市生活のモデル都市として必要不可欠である。そのため、公共施設をはじめとして、高齢者、障がい者など、誰にも使いやすいユニバーサルデザインを推進する。

拠点像の実現に向けた取組例

(●印はすでに実施済みのもの。★印は、これから実施するもの。)

●東アジア経済交流推進機構

2004年、「環黄海経済圏」の発展に向けて、日中韓10都市の行政・経済界が設立したもので、「ものづくり」、「環境」、「ロジスティクス」、「観光」の4つの部会を設け、起業家、技術者、研究者も加わって、国際協力の仕組みの検討が進められている。

●アジアをキーワードとしたイベントの実施

デジタルコンテンツ分野の「アジアデジタルアート大賞展」、ファッション分野の「アジアコレクション」、文化交流分野の「アジアマンス」など、アジアをキーワードとする様々なイベントが実施されている。

●福岡市ソウル・プロモーションの実施

韓国・ソウル首都圏における福岡との交流・連携を促進するため、福岡市及び観光コンベンションビューロー等によるプロモーションを実施している。

●地域完結型医療システムの構築

九州大学において、福岡市東区の医師会と連携し、脳卒中患者のホットラインを手始めに地域医療連携室を設置。病床の融通など、病院のネットワークを構築している。

●福北導水事業

災害に強く、水に不安のない福岡県を実現するため、北九州市と福岡都市圏を結ぶ「水道用水の緊急時連絡管」を整備し、災害等の緊急時には、水道用水を相互融通することとしている。福岡都市圏と北九州市が広域的に連携した好事例である。